

T O
S
B A
UPER
AQUA
RIUM

■ TOBA SUPER AQUARIUM ■

特集

新たな教室を

鳥羽水族館
第二土曜教室スタート

鳥羽水族館ぐるっと一周

ジャングルワールドゾーン

SAVE OUR NATURE !

アマゾン川の熱帯雨林

〈その重要性と危機〉

●NUNO O. VECCHI (訳/松本リカルド剛)

タコの足(腕)は何本? 副館長 片岡照男 01

特集 ●新たな教室を…
**鳥羽水族館第二土曜教室
スタート!** 02

ショート
エッセイ 薄幸の人魚姫“ジョアンナ”
若井 嘉人 05

鳥羽水族館ぐるっと一周
ゾーンの人気者
案内リレー(5) **ジャングルワールゾーン** 06

**SAVE OUR
NATURE** アマゾン川の熱帯雨林(その重要性と危機)
NUNO O. VECCHI 10

とっておきの
ウラ話 ピラルクについて思うこと
三谷 伸也 12

伊勢志摩
海の民俗・民話
なるほど紳士録 **ワグエビ**
森 拓也 13

鳥羽水族館
活動レポート(5) **三重動物学会** 14

出来事&
クローズアップ 平成4年11月1日~平成5年1月31日 16



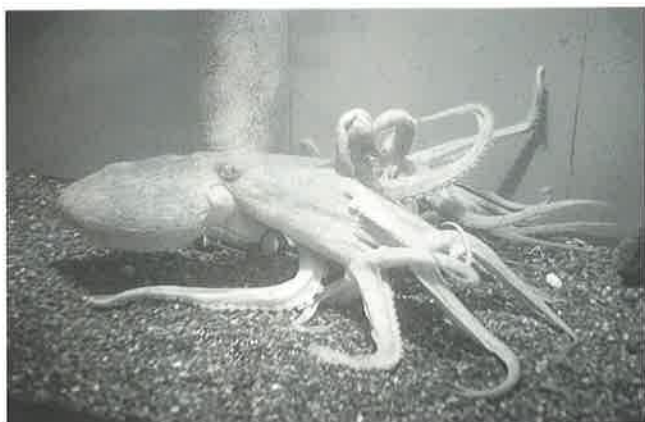
●フロントページから

このすばらしい緑と水の大地とそこに
住むすべての生きもののために、
我々ができることは何だろうか。

写真: 鳥羽水族館/中村 元
(ブラジル・アマゾン川にて)

タコの足(腕)は何本？

●副館長 片岡照男



1月13日に発見された33本以上足があるタコ



56本足のタコの標本

足の数	採捕年月日	採捕海域
(1) 85本	1957年8月1日	三重県鳥羽市答志町(伊勢湾)
(2) 56本	1964年10月12日	三重県海山町引本(尾鷲湾)
(3) 25本	1984年12月31日	三重県二見町(伊勢湾)

1993年1月13日に鳥羽市答志町の大築海島(おづくみじま)沖で足の数が異常に多いタコが発見され、鳥羽水族館に届けられました。このタコは濱口清祥さんが水深20mに仕掛けたタコ壺に入っていた約2キロのマダコですが、普通は8本のはずの足が途中で枝分かれして33本もあり、それ以上はタコが動きまわるので正確には数えられませんでした。表のように、鳥羽水族館には、これまでに発見された記録的な『多足タコ』の標本が保存されていますので、今回が4例目になり、現在本館で飼育展示中です。タコに見られるこのような『多足』現象は何が原因で起こるのでしようか？タコやイカやオウムガイの仲間には、頭足類とよばれ、貝

類を含む軟体動物の中では最も進化した動物群といえます。またマダコは約一年でその一生を終わる短命な動物ですが、それだけに逞しい生活力を持ち、中でも強靱で柔軟な筋肉組織と重要な活動機能を備えた足(動物学的には腕)は、強い再生力に恵まれています。

マダコの天敵は、同じような環境に生息する強力な歯をもったウツボの仲間だといわれています。損傷した足の部位にもよりますが、かじり取られたタコの足は数カ月でもとどりに再生されるのが普通です。しかし一度に8本の内何本かが、仮に途中からでも失われた場合は、緊急にそれを補う必要に迫られるはず。このような致命的ダメージを受けたときの強い刺激が、異常再生を起させる引き金のひとつになって、タコの足を分岐させるのではないのでしょうか？

本当のことはよく分かりませんが、タコの動きを観察しているかぎりでは、必要以上に多い足が特に生活に影響を与えることもなく、十分な成長がそれを裏づけているように思われます。

特集 ● 新たな教室を…

鳥羽水族館第二土曜教室

スタート!





1992年9月、文部省により学校週5日制が導入され、毎月第二土曜日が休みになりました。各学校ではこの導入に対しさまざまな取り組みが検討されています。なにぶん初めての試みということもあり、学校自身としてもその対応に苦慮しているようで、具体的な活動を行っている学校は少なく、むしろ公共の施設にその対応を求めています。この意向に沿うように各地の動物園、水族館を初めとする博物館施設ではさまざまな形で受け皿づくりが、具体的に動きだし始めました。

鳥羽水族館では以前から社会教育活動の一環として、教育セミナー、

移動博物館、少年海洋教室、教材ビデオの制作などいくつかの取り組みを行ってきました。中でも小学生高学年を対象に、自然に親しむ教室として夏休みに行ってきた少年海洋教室は、毎年たくさんの方々から応募があり、「このような教室を増やしてほしい」という声が多く寄せられてきました。また私たちとしても、子供たちが自然に親しめるこのような活動をさらに充実させたいと望んでいましたので、この機会に新しい教室を実施することにしました。

この教室では自然の中で自然を相手に、さまざまな事を体験し、子どもたちの創造性を育てるような教室にしたいと考えています。最近の子供たちは、大変むずかしい事も知識として知っています。しかしその反対に、何事も実際に体験する機会は少なくなっているようです。子どもたちの『知っている』は、本やテレビで『知っている』ということ。これは生物や自然に関しても同じです。というよりは生物や自然に関しては特に言えることかもしれません。この教室では外にでて少々ケガをしても、服がドロだらけになっても、身をもって多くのことを自身で体験して欲しいのです。

参加者募集

鳥羽水族館 第二土曜教室 〈川と海の生きもの〉

実施期間：4月～6月の第二土曜日 集合10：00 解散17：00

4月10日・11日／5月8日／6月12日

(但し、4月は10〈土〉、11〈日〉日の1泊2日)

対象：小学生4～6年生(男女問わず) *原則として3回すべてに参加できる方

募集人員：20名

応募方法：往復ハガキに、住所、氏名、学年、性別、電話番号、学校名、

何を見て応募されたのかをご記入の上、下記あて先までお送り下さい。

〆 切り：3月31日(必着)

参加費用：8,000円(宿泊費、図鑑代、保険料等を含む)

※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

◆あて先・お問い合わせ◆

〒517 鳥羽市鳥羽3-3-6 鳥羽水族館 企画室「第二土曜教室」係

電話 (0599) 25-2555 (代)

土曜教室は…

1 第二土曜日がたのしい日になるような…

とにかく楽しいこと、これが鳥羽水族館第二土曜教室の目標です。せっかくできた休み、子どもたちはきつと面白い、楽しいことをやりたいに違いありません。鳥羽水族館第二土曜教室はあくまでも子どもたちが興味を持って楽しめる自由な教室にしたいと考えています。難しいことを机の上で勉強しようとするのではありません。みんなで楽しくいろいろな事を体験し、興味のあることはどんどん進めていきたいと思います。子供



たちが毎月の第二土曜日が待ちどうしくなるような教室にしたいと思っています。

2 海、川、自然を通して生物の神秘、不思議を知り感動できるような…

生物にはまだまだわからないことや不思議なことがたくさんあります。学校でいくら本を読んでいても、写真で見てもそれだけでは、わからないことも多いのです。「百聞は一見にしかず。」水族館で本物を見て触ってみましょう。その手触りや匂いなど本物でしかわからないことがたくさんあります。またフィールドにも出かけましょう。自然のことをよく知るた



めには自然に飛び込むことです。見たこともない生物に出会うかも知れないし、思ったより水が冷たかったり、生物がすばしっこく捕まえられなかったりもするでしょう。驚きや発見がきつとあります。子どもたちは身をもっていろいろなことを知ることができるようです。子供たちには本来、自分自身で体験したものに感動し、それら吸収する能力が大人以上に備わっています。

3 普通ではできないことが体験できるような…

一体水槽の魚達は、どんなエサをどれくらい食べているのだろう。水はなぜきれいなのか、飼育係の人は毎日どんな仕事をしているのだろう。水族館の裏側には、見たことのない機械や設備が並び、飼育係の人が仕事をしています。普通では見られない水槽の裏側を歩いてみたり、エサをやったり普通ではできないこと、いままでしたことのないことに挑戦してみます。わからないことや知りたいたいがあれば飼育係の人にどんどん聞いてください。簡単そうに見える仕事も難しく、大切ということがきつとわかるでしょう。

4 いろいろな人と話してたくさん新しい友達ができるような…

もう一つのすばらしいことはいろいろな人と出会い、そして新しい友達ができることでしょう。この教室では学校と違いました。知らない人との出会いがあります。参加者は地元の人たちばかりではありません。海洋教室には大阪、名古屋、東京の人たちも参加しました。初め子どもたちは、先生やまったく見ず知らずの他の学校の人たちと出会い、とまどいが見られます。しかし、時間がたち同じ目的をもって協力しあううちに、あつというまに打ち解けてしまいます。見ているとそれからはみんな積極的になり、何をやっても楽しそうです。初めて出会った人たちと、同じ時間を過ごし共同で作業をするうちに、たくさん仲間ででき、教室が終わる頃には、子供たち同士ずっと以前からの友だちのようになっていることでしょう。

そんな教室にしたいと考えています。

薄幸の人魚姫 “ジヨアンナ”

「すぐにフィリピンへ飛んでくれ。」「(そらきた・いつもの部長の緊急業務命令である)」「先日副館長から話があったとおり、フィリピンで漁師の網にかかった子供のジユゴンが保護されている。

ロミー達が世話をしている是非見にきてくれと言っているんだ。とにかく行って状況を把握してきてくれ。」「“ロミー”というのは、

フィリピン天然環境資源省のジユゴン保護セクションのボスであり、我々とは1985年に始まったフィリピンでのジユゴン合同調査以来のつきあいである。鳥羽水族館の看板娘ジユゴンの“セレナ”もこのエルニド調査期間中、当時のアキノ大統領から贈られたものなのである。とにかく、とるものもとあえずフィリピンへ飛ぶことになったのだった。

さて、“ジヨアンナ”と名付けられた子供のジユゴンはあまりにも小さく、そして幼かった。常駐スタッフの話によると、最近食欲がなくなり下痢気味であるとのことだった。ジヨアンナは静かな入

江の中に浮かべられた網いけすに入れられており、飼育スタッフはいかだ上に構築されたコテージで24時間体制で彼女の飼育管理にあたっているのだった。「それにしても狭すぎる。」「約3メートル四方の網いけすでは食欲も減退するだろう。

「ロミー、もっと広い場所へ移そう。」「思わずそうつぶやくと、

どうやらロミーも同じ考えらしい。その日から我々のあわただしい日々が始まった。新しい蓄養場所の確保、餌の海藻の採集地探し、授乳量の検討、etc...。また我々は、現地の人々からジユゴンに関する情報を収集したり、市長を訪問しジユゴン保護を訴えたりもした。そんなある日、我々をまったく不愉快にさせる事件が起こった。ある漁師が網にかかったジユゴンをひそかに解体し、ヤミで売りさばいていたと言うのだ。証拠の肉も我々の所に持込まれた。漁師は一日働いても僅かの金にしかならない魚よりも、美味ですぐに現金になるジユゴンの肉を選ぶ

のだった。帰国前夜、我々はロミーたちとさやかな宴を持った。話題はもちろんジユゴンの事が中心となったが、やはり行きつく所はフィリピンの抱える財政的な問題である。大卒の国家公務員である彼等でさえ満足に給料が支払われていないらしい。彼等のいらだたしさがひしひしと伝わってくるようであった。

帰国後、2週間経った頃ジヨアンナの状態が良くないとの連絡を受けた。そして追うように死の報が。野生動物の保護問題は、人間の生産活動があるかぎり永遠に続くだろう。特に発展途上の国々においては、人間の生活が優先されがちである。ジヨアンナの死が無駄にしないためにも我々は自分達に課せられた責任の大きさをま

ず知らなければならぬ。 ■ 『このジユゴン飼育指導スタッフの派遣については、前号、特別報告で詳しく述べています。』



ジヨアンナの体重測定。
元気に育ってほしいと
だれもが願ったが・・・

●鳥羽水族館ぐるっと一周

ゾーンの人気者案内リレー

新鳥羽水族館では環境や生物の生活などをテーマに館内を分けています。

vol.5



ジャングルワールド
ゾーン

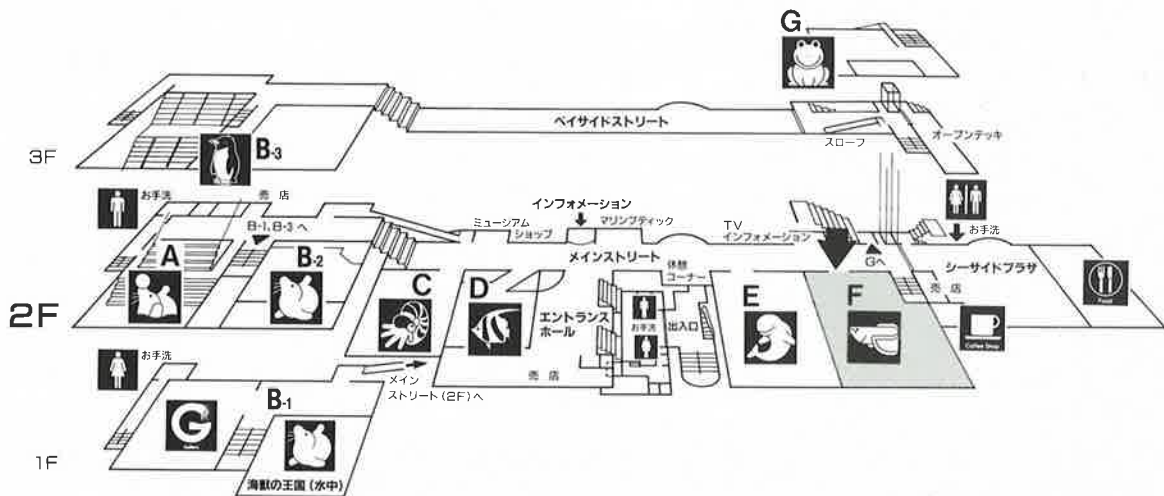
ぼくたちのふるさととは、ジャングルに囲まれたアマゾン川。
そこに住むいろんな仲間が、ここでくらしているんだ。
とても大きな魚や、中には恐そうな魚も…。
それじゃあそろそろ、ジャングル探検に出発しよう！



遠くから小鳥のさえずりが聞こえてきたら、そこはぼくたちの住んでいるジャングルワールドゾーンだよ。
このゾーンでは、2つの大水槽とちよっと変わった特徴を持つ魚たちの住んでいる8つの水槽が見られるんだよ。



大水槽の1つは、南米のアマゾン川をモデルに熱帯の自然を再現したジャングル水槽。うっそうとしげった草や木、滝やくち果てたつり橋。アマゾンの一面をそのまま切り取ってきたみたいでしょ。突然のスコールにも驚かないでね。この熱帯雨林特有の気候はぼくたちとても深いかかわりがあるんだ。そんな様子をじかに感じてもらおうと、スコールを含むアマゾンの1日の移り変わりまでもここではコンピュータで再現しているんだよ。アマゾン川はその流域面積が日本の国土の約18倍といわれているんだ。18倍っていわれてもみんな想像できる？とにかく広い大河には、川の魚とは思えないような巨大な魚たちがいっぱい住んでいるんだ。そのアマゾン我代表する巨大魚はピラルク。大きくなったら3メートル以上にも達し、その大きくてがんじょうなウロコはくつべらとして使われたりするんだよ。巨大魚といえば、となりの大水槽に住む東南アジアの魚たちにもきつとみんな圧倒されるよ。他にもここではデンキウナギやテッポウウオといった、ちよつと変わった魚たちに会えるんだよ。次のページの探検マップで出会える場所を確認してみてね。

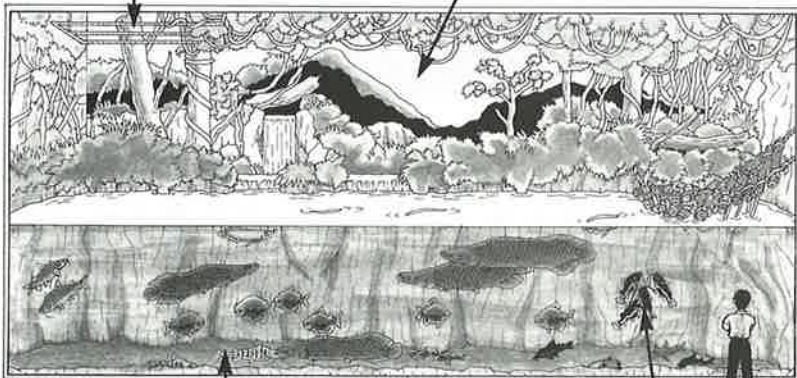


ジャングルワールド水槽 ここがポイント！

陸上にも注目！
霧・風・スコール・
落雷・虹が10分間隔
で見られるヨ。

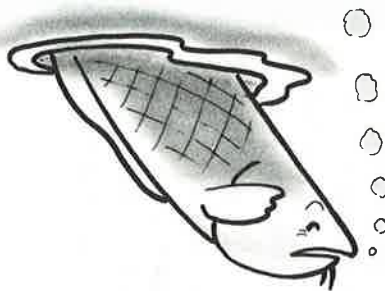
実際には草や木で
おおわれて見えない、
スコールを降らすための
パイプ。

スコールのあとの虹は
このあたりにでるヨ。



底にはナマズの仲間がたくさんいるから
見逃さないでネ！

なぜか？！いつも排水口のところに
群れる、レッドテールキャット。



東南アジアの巨大魚たち

パー・ルム



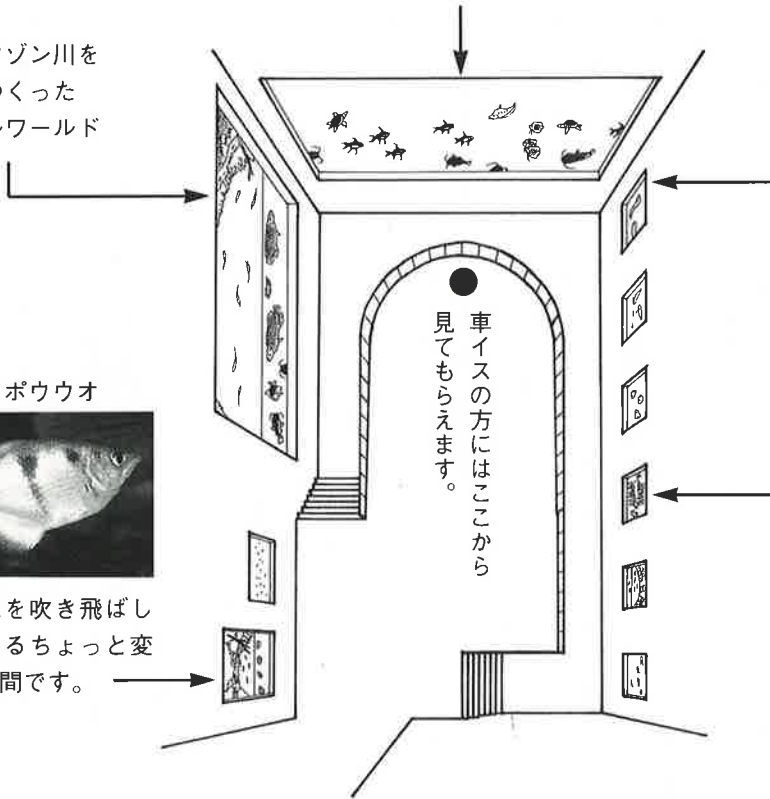
パー・カーホ



オスフロネームス



ここがアマゾン川をモデルにつくったジャングルワールド水槽



デンキウナギ



刺激を受けると約700ボルトの電気を放電するんだよ。

テッポウウオ



口から水を吹き飛ばして餌をとるちょっと変わった仲間です。

ピラニア



“アマゾンの人喰魚”って恐れられているけど、性質は臆病。

◆ ジャングルワールドゾーン探険マップ ◆



奥村 奈穂



森滝 丈也

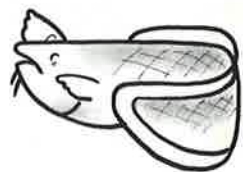


三谷 伸也



山下 格

ボクたちの担当スタッフのみなさんです。



SAVE OUR NATURE



We must be thinking now about THE EARTH.

カエルが地球をやさしく抱いているイラストは鳥羽水族館のSAVE OUR NATUREキャンペーンのシンボルマークです。このコラムでは、毎号の各ゾーン紹介に関連した地球環境の話題をご紹介します。

5

アマゾン川の熱帯雨林 (その重要性と危機)

エキゾティクアリウム館長●NUNO OCTAVIO VECCHI

(訳: 松本リカルド剛)

世界の中で熱帯雨林が一番多く分布しているのはアマゾン川流域です。そこには世界的に見ても豊かな植物群と動物群の生態系が形成されています。アマゾン川の広大な流域と独特の気候がそこに広がる氾濫原の発達に大きく貢献しています。アマゾン川流域の氾濫原は約70、000キロ平方メートル、アマゾン川流域に氾濫原の占める割合は約2%にあたります。もしも、この氾濫原が消えてしまったり、そこに息づく様々な植物や動物も消えてしまえば、したがって早急に詳しい生態系の研究や維持政策が必要とされています。実際に我々はこれらのことに対してわずかな知識をもっています。

魚類の中で大型のものについては、小型の熱帯魚などよりその研究はたいへん困難です。よく知られている大型の魚類のうちでも50%以上は、まだその魚と氾濫原との生態学的な関わりあいについてはよくわかっていません。しかしその大型魚類の75%については、その植物連鎖の原点は氾濫原にあるとされています。これらいろいろな研究や調査を行っているのがアマゾン国立研究所(INPA)です。そこでは熱帯雨林が不毛な土地の栄養分のリサイクルに有効であるということを証明しました。この調査は明白なもので、もしも熱帯雨林が破壊された場合はその土地の栄養分は失われ生態系は大きなダメージを受けます。

アマゾン川流域の魚類は氾濫原と直接強く結びついています。魚類にとって氾濫原はもつとも重要な栄養源の一つです。そして同時に熱帯雨林もそこに住む魚類を必要としているのです。水面に落ちた果実を食べた魚類のなかには糞として種子を排泄するものがあります。つまり魚類によって広範囲に種子が散布されるわけです。熱帯雨林にとつて魚類は種の繁栄という役割に大きく貢献しているわけです。もしこれらの魚類がいなくなったら、熱帯雨林のこれほどの繁栄はないでしょう。植物と動物はそれぞれがそれぞれの生態系の一部であると認識することが大切です。もしも、自然の中で生活しているアマゾンのカポックロ(白人と先住人の混血児)が「あの植物にはタンバキイ(日本では一般的にコロンマと呼ばれる魚)のくだものなるよ。」

と叫んでいるのを耳にしたら、つまりそれは植物と魚は同じ生態系の一部なんだという、そのつながりを意味しているのです。これらの事実にもとづいて、アマゾンにおける水力発電所の新たな建設計画は慎重に再検討しなければなりません。新しいダムが建設された場合、そこには湖が出現し、それによつてその流域は荒廃的なダメージを引き起こすこととなります。ダムを建設してしまつたら、そこには予知できないほど大きな最悪の結果もたらされるのです。(ブーメラン現象)。

南米大陸とアフリカ大陸が分かれたときに、それぞれの大陸の動植物は進化の中で違った道を歩んできました。そこには様々な植物群と動物群が現れ、2つの大陸では相当な生物学的差異が生じました。両方の大陸は熱帯の地方に属し複雑な地形をもち、それぞれ広大な流域とおしげつた熱帯林におおわれています。

そして今、アマゾンにおいて遭遇する危機的な出来事は、アマゾンの風景のアフリカ化ということです。それはアマゾンの熱帯雨林に牧草が増えつつあるということですが、アマゾンはいちめんに樹木が広がる森林で、牧草はほとんどありませんでした。

現在は牧畜業者がアマゾンに入りこみアフリカの牧草を植えているのです。

アフリカの牧草は強固でタンパク質が多く含まれ、容易にその土地に同化していくのです。こういった開発は自然に対してはいちじるしく攻撃的なもので、結果的には莫大な費用がかかり、アマゾンにとつて抑制できないいもつとも悪い原理なのです。わずか20年の間にそういうシステムが広がってアマゾンの熱帯林の5%に損害を与えました。それに伴い動物群や植物群に与える害は大きく、アマゾン地方の土地が目立ってやせてしまいました。アマゾン川の漁師は牧畜業が短期間に豊かな食べ物を得られると間違つた考え方をさせられてしまったのです。

現在、牧畜業者が特に注目している地方はアマゾンの南(マツトグロツソ、ホンドニア、アツクレ)です。その地方での伐採率は非常に高いもので、山焼き作業が乾期に加



左：ヌーノ館長
〔鳥羽水族館とブラジル・エキゾティクアリウムは1988年姉妹館提携を結んでいます。〕



NUNO OCTAVIO VECCHI

ヌーノ・オッターピオ・ヴェッキ

ブラジル人 64才 動物学者
パンタナールにおける動物群調査をはじめ、世界各地で様々な研究調査を行う。ニューヨーク動物園協会会員。ギネスブック（ブラジルにおける動物部門担当）のコンサルタント。ブラジル・エキゾティクアリウム館長

速的に行われ、その様子は国会や国際連合をも驚かせました。

そして、まだ気づかれていない重大なことは、山焼きの煙がおさまったあと、もうその土地は、アフリカの一部のようになってしまうという事です。

アフリカに見られるサバンナが、現在アマゾンのなかでもすごいスピードで広がっています。そして、それが広大な地域になってしまったとき、たぶん熱帯の樹木が自分の力で元に戻ることはできないでしょう。たとえ山焼きを中断したとしてもです。

アンデス山脈が隆起したとき、そこには自然に広大なダ

ムが生まれ、アマゾンの流れが一部消滅したという事実があります。人間もまた、様々なダムをアマゾンの中に計画し建設しています。自然に生まれたダムと人間が建設したものとを比較してみましょ

う。アンデスの隆起によって生まれたダムは、何百万年という年月をかけてつくられました。植物や動物が適応のために必要な時間というものがある。そこには十分にありません。

また、新たな種の出現に対しても十分な時間だったといえるでしょう。それに比べ人間の建設したダムはこれらの適応に対して十分な時間というものを与えてはくれません。

もっともなげかわしい重大なことは水力発電所（自然に対しては悪い影響を与えることだが、人間にとっては仕事やエネルギーを与え豊かさをもたらす）の建設や川の消滅ではなく、この豊かな生態系に対し否定的な結果が生じた場合それを阻止する研究が進まなかつたとき、我々に対してどんな事態が発生するかわからないということなのです。

ダムを建設するには、多額の費用がかかり、それはブラジルの経済だけでは到底まか

ないきれません。したがって、豊かな外国企業が参入することになり、ブラジルにとって

は外部からの貸付金がかさむばかりで、政治的にも不安定な状態になります。一生借金を背負いながら結局は支払うことができず、いつかは自分の破産を認めなければ生活すらできなくなってしまうのです。この悪循環は見方によ

っては無謀な伐採を行うことにしています。貸付金を植物の栄養分と置き換えてみると、その栄養分はアマゾンの土地にはわずかしかなかった。そして栄養分は自然の有機物分解を待つより山焼きをする方がより早く得られます。

ですから人々は森林の一部を伐採し、山焼きをおこなった植物の中に含まれる栄養分を多量に得ようとしています。しかし、この栄養分はすぐ雨によって流されてしまい、またすぐに新しい栄養分が必要となります。すなわち、また別の土地を伐採し山焼きを行うという、まさに永遠の悪循環となるわけです。実際アマゾンの森林は、人間に対しては

直接の食物源にはなりません。ほとんどの植物や動物は直接食べることはできず、熱

帯雨林は、人間に対して穀物倉庫の役割にはなりません。それでは人間にとって食べ

物として魚を得ることができない。人間にとって魚類はむしろ氾濫原のはなしにもどりましょう。人間にとって魚類はもっとも大きなタンパク質の源です。したがって、氾濫原は、大切な魚類と森林の生物的きずなであるといえます。

他の脊椎動物とくらべ魚類はなぜこんなに豊かなのでしょうか。それは様々な魚類が異なった食物資源を持つからです。人間と違って魚類は、くだもの、たね、虫、などいろいろな食物を取り入れます。そういった食べ物は氾濫原にいるときには多量に得ることができ

ます。このような豊かな魚類が氾濫原の中にあることから、魚類は我々にとって他のタンパク質資源の獲得方法と比べたら、もっとも容易で多量に得られる食物資源になります。

最後に魚と森林を含む氾濫原は、この独特の木と水の共生から生まれた生物相を保持することができる、我々に対して熱帯雨林の使用価値をとっても合理的にそして効果的に高める場なのです。

ピラルクについて思うこと

■飼育研究部 三谷 伸也■

私は淡水魚と爬虫類、両生類を担当していますが、特に思い入れのある魚の一つにピラルクがあります。この魚は南米産で大きくなると4・5メートルにもなるのですが、今では乱獲がたたつて2メートルそこそこの個体がほとんどだそうです。現在、アマゾン流域の国からアメリカ経由で36時間かかっている日本にやってきました。そのため高価なピラルクですが、近年は個人的に飼う人が増加しています。ペットショップで20センチ足らずのオリブグリーン（オリーブグリーン）の体をくねらせて泳いでいる姿は愛らしく、またすでに古代魚の風格を備えています。しかし、半年くらいで90センチ水槽に入らなくなり、1年たつと150センチ水槽でも方向転換がしにくくなってしまうほど成長が速い魚です。そこで大きな水槽を持つ水族館やペットショップに引き取りを依頼することになるのです。

ある夏の暑い日、愛知県の方から電話がありピラルクを引きとつ

て欲しいとのこと。事情を聞いてみると水槽が破れていま風呂桶にいられたというので、トラックにタンクを積んで急いで引き取りに行きました。見てみると厚さ10ミリの特注アクリル水槽にきれいに亀裂が入っていました。普通の力ではそうそう破れる代物ではありません。改めてピラルクの瞬発力のすごさを思い知りました。風呂桶からすくうのにまたひと苦労。一角に追いつめるとジャンプして逃げます。3回目のジャンプの時でした。着水位置を誤ったピラルクは『ゴン』と頭をぶつけて動かなくなりました。さつと血の気が引きましたが、持ち主の家族が見守る中、シートにくるんでトラックまで走りました。タンクに入れて再び動き出すまでなんと長く感じたことでしょうか。このピラルクは餌も食べるようになります。水族館の水槽内を元気に泳いでいます。

また大阪から、ただ大きくなつたから引きとつてほしいとのこと

で行つてみるとピラルクは水温20℃の浅いプールに入れられて元気がなく、25℃にセットされた大きな水槽（いままでのピラルクが入っていた）には別の魚が生き生きと泳いでいました。急いで水族館に連れて帰りましたが、何とか生きてほしいという願い空しく、夜中に死んでしまいました。本当に哀れなものです。ピラルクが大きくなるのに罪はありません。年に数回、大きくなったピラルクの引き取りに出勤しますが、今後増加傾向にあるような気がしません。

動物を飼う場合は、購入の時点で動物の将来に責任を持つことが、売る側にも買方側にも課せられた義務だと思えます。最初から手に負えなくなるとわかつていないなら飼わないことです。飼育者は最後まで彼らとつきあつて欲しいものです。



古代魚の風格を備えるピラルク

ワグエビ

■学芸員 森拓也 ■

別にお国自慢と言う訳ではありませんが、動物の名前に地元の名が付けられていたりすると、何となく親しみを覚えるものです。

以前に本欄でご紹介したイセエビなんぞその最たるものですが、捜してみたら他にもミエ(三重)ハタンポや、鳥羽には分布していないのにトバザクラガイと名付けられた二枚貝もありました。有名なところでは無菌ガキとして知られる“的矢ガキ”というのもあるのですが、こちらはいわばブランド名で、標準和名ではありません。

時はさかのぼって1958年のある日、三重県は志摩町の和具で、イセエビを捕るための刺網に見えないエビがかりました。全身が淡い朱色の美しいエビで、弓なりにピンと伸びた立派な第2触角には白いしま模様、歩脚には赤いしま模様があり、イセエビの仲間

であることは判るのですが、どうやら新種らしいのです。そして2年後の1960年、この標本を元に久保田伊津男博士が新種として発表し、採集地の和具の名をとって、学名をパリヌスタス・ワグエンス、和名をワグエビと名付けました。

ワグエビは当初、志摩の海の特産種ではないかと考えられていましたが、その後、和歌山県や房総半島などでも採集されています。ですから、もし一番最初に和具で見つかっていなければワグエビの名前はなかったかも知れないのです。

「オバちゃん、ワグエビ活けて(カゴ)に入れて生かしておくことない?」「2、3匹ならあるやろ。値エようこうてくれるかん(高く買ってくださいか)」

秋になると志摩半島の各地でイ

セエビの刺網漁が始まります。このエビ網にはイセエビの他にも商品価値のないカニやドカリ、その他色々な動物がかかるので、鳥羽水族館では随時スタッフが採集に出かけているのですが、まれにしか獲れないワグエビは普段から頼んでとっておいてもらわなければなりません。彼等は水深50メートル程の比較的深い所に住んでいるため、獲れるのは深場に網をかけたときに限られますが、漁師さんにとってはちよつとした小遣いかせぎにもなるようです。

ちなみに、ワグエビが歩く姿はなかなか見ものです。胸をはって足をあげてワンツーワンツー……という訳でもないのですが、触角を後方にあげ、体を弓のようにそり返らせているのはなぜでしょうか。



三重動物学会

レポーター●高村 直人

海や山、川といった自然の中には、いろいろな生き物たちが生活をしています。このような自然は、わざわざ遠くへ見に行かなくてもいいのです。庭にやってくる小鳥やどこからか聞こえる虫の声、そんな身近な自然についてあなたはどれだけの事を知っていますか。

今回は三重県内の生物について、もっとよく知りたいという人が集まって結成された三重動物学会の活動についてレポートをお届けします。

鳥

羽水族館のある三重県は紀伊半島の東側に位置し、南北に細長い形をしています。山深い場所があると思えば、入りくんだ地形によって複雑な海岸線をしている所もありますし、沖合いには黒潮も流れています。このような自然豊かな三重県には、様々な生き物達が生活をしています。

三

三重県内の海や山にすむ身近な生物達についてもっと良く知ってもらおうと、中村館長の働きかけによって、三重動物学会(通称M.Z.S)は誕生しました。平成2年には450名程だった会員も鳥羽水族館の新館がオープンした頃から急増して、平成5年の今では約1、200名の会員を数える大きな団体となりました。M.Z.Sには、三重県はもちろんのこと東京や大阪、奈良などの県外の方も入会されています。また会員の方々には一般の人にまじって高校や大学の先生や博物館・水族館に勤めている人といった生き物の専門家の方もいらっしゃるようです。このような人で構成されているM.Z.Sは、より多くの生き物達と触れ合ってもらおうと四季を通じて様々な観覧会を海や山で行っています。

先

日、私はM.Z.Sが主催する「底曳き網の漁獲物の観覧会」に参加することができました。観覧会の会場となった鳥羽水族館では、家族連れの方が多く見受けられました。トロール漁船の底曳き網によって採集された生物の山をピンセットで一つついていねいに仕分けしてゆく会員の皆さん。子供たちは見るもの全てがめずらしいようで、ずっと目を輝かせていましたし、大人の方々も食べられる生き物の名前は知っても、それ以外となると知らない人が多いようです。

当

然の結果として、生物の山からはゾロゾロと日常ではあまりなじみのない未知の生物が発見されます。「うわあ、何だこれは!」「これも生き物なんですか?」などの声があちこちから聞こえてきます。そんな中を魚や貝の専門家の先生方は忙しそうに動き回っていました。先生が手に取り上げた生き物の名前や、この生き物が海でどのように生活しているのかを話されると、会員の皆さんは、しきりにメモをとりながら一生懸命に聞いていました。結局、この日名前がわかった種類は、魚や貝、



底曳き網でとれた生物の説明を熱心にきく会員のみなさん



野鳥の観察会風景



ピンセットでいいいに仕分けしてゆきます。

エビ、カニなどの仲間を合わせて約150種ほどになり、生物が豊富な三重の海に改めて驚かされました。

観 察会はこの他にも、山野の生物や野鳥の観察会、秋に鳴く虫の音を聞くなど、実に様々な事が行われています。おもしろいものでは、昨年ムササビの観察会が行われました。夜の闇の中を淡いライトの光に照らし出されたムササビが、木から木へと飛び移る姿が見られたそうです。「ムササビの飛び姿を見た時は、すごく感動しましたよ。」と、飼育研究部の山本次長はその時の様子を話してくれました。「観察会を通じて自然の中で生きる生物に出会える事がとても楽しい」という山本さんは、観察会にはMZSのスタッフとして参加します。スタッフの仕事は、観察会の内容の決定や準備、当日の会員の皆様のお世話などがあり、とても忙しいようです。また、野生の生物を見に行く観察会になると「天気は大丈夫だろうか」とか「本当に動物の姿を見ることが出来るだろうか」と心配する事も多いようです。そうして苦労して準備をした観察会が無事に終了するとやっつてよかったという気持ち



エビ網後の観察会ではたくさんの生物をみることができます。

になるそうです。今後は野生の生物の観察を多く行ってみたいという事で、今年も、野鳥観察会やリアオガエルの産卵の様子を見に行く予定になっているそうです。

最 近では、自然を大切にしようとか、野生生物を保護しようという動きが活発になってきました。こうした自然や生き物を愛し、守っていかうという気持ちはとても大切な事です。地域に根ざした活動という点からも鳥羽水族館ではMZSを通じて、一人でも多くの人に生物と触れ合ってもらおうと、活動をすすめています。

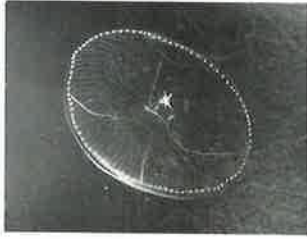
出来事

■平成4年11月1日～
平成5年1月31日

- 11月 6日★近鉄中之郷駅リニューアル
オープン記念イベント開催
6～8日★三重県移動博物館に出展
7日●海のホール定期コンサート開催
名古屋フィルハーモニー交響楽
団のメンバーによる弦楽四重奏
29日●三重動物学会主催
底曳き網の漁獲物観察会
- 12月 28日★アジアアロワナ展示
- 1月 7日★中国から研修生
13日●33本足のマダコ採集
16日●海のホール定期コンサート開催
ドウを迎えて

★CLOSE UP★

新種クラゲ発見



1988年夏、鳥羽湾で採集された魚類を海水と共に収容した水槽に、クラゲのポリプが出現しました。

そして翌1989年8月と1990年2月～4月にはポリプから多数の小さなクラゲが遊離したため、担当者が調べたところ、担当者あることが判明し、このほど和名がコブエイレネクラゲ、学名が *Eryne lactoides* と名付けられました。

中之郷駅 リニューアルオープン

11月6日、かねてより工事が推められていた近鉄

中之郷駅がリニューアルオープンし、ミス・リゾート鳥羽と、鳥羽水族館からはラッコのぬいぐるみが参加して記念セレモニーが行われました。1日駅長に任命されたミス・リゾートのお二人は、中之郷駅で到着列車を見送った後、鳥羽水族館で中之郷～鳥羽間の乗車券をお客様に配布しました。また、関連行事として、後日、近鉄のジョイフルトレイン「楽」号を使った『楽らく水族館号』も運転されました。



三重県移動博物館

11月6日から8日にかけて白山町で三重県移動博物館が開催されました。これは文化週間協賛事業として地域文化の向上に役立てようと始まったもので、開催する市町村と共同で、三重県博物館協会に加盟する各館が所蔵する代表的な資料を一堂に集めて展示を行うものです。昭和53年に第一回が熊野市で開催されてから今年で第15回をむかえる

■編集後記■

小学校以来、ずっと国語が得意科目だった私も、このT. S. A.の原稿を書くたびに自分の書く文章には呆れてしまいます。いい文章が書けない!うまく表現できない!と嘆きつつ原稿の締切日におわれる毎日です。(高村)

あっというまに創刊から1年が過ぎ、この5号が2年目のスタートになります。たくさんの方々にお世話になり、こうして発行することができるT. S. A.もうそれぞれに思い出がいっぱいです。

(酒井)

TOBA SUPER AQUARIUM
1993 春 第5号

発行人/中村幸昭

発行所/鳥羽水族館
〒517鳥羽市鳥羽3-3-6
TEL 0599-25-2555

編集長/中村 元

編集委員/酒井里絵子
高村直人

レイアウト/(有)スクープ

印刷/(株)アイブレン

© 本誌の掲載記事、写真等の無断複写・複製転載を禁じます。

(本誌は再生紙を使用しています)

アジアアロワナ展示

12月28日にアジアアロワナが3尾入館しました。CITESの附属書Iに記載されている第1級の保護対象種ですが、数年前にインドネシアで養殖されるよう



になってから、限定された条件で輸入が認められるようになりしました。今回入館したものは、全長約40センチで黄金色の鱗にオレンジ色の発色が見られる美しい

までになりました。鳥羽水族館はアンモナイトの化石、世界の貝、VTR、水族館コーナーなど加盟館のなかでも最も多くの展示を行いました。今回の白山町において開催された移動博は県内25館からすばらしい資料が3日間展示され、大盛況のうちに終了しました。(山本)

トリにちなんだ 名前の貝展示

日本一貝のコレクションで知られる本館の寺町コレクションホールでは、毎年その年の干支にちなんだ名前の貝を展示しています。

個体です。アジアアロワナは生息域によって色彩変移があることが知られていますが、今回入館したものは特に数の少ない珍しいものです。現在古代の海ゾーンに飼育展示していますが、環境や餌など飼育条件を十分に考慮して、繁殖のできる個体の飼育をめざしたいと思っています。(浅野)

中国から研修生

今年はとり年ということでトリガイをはじめ、ウグイスガイ、ツバメガイなど8種の貝を展示しています。

中国最大の海洋研究所である中国科学院海洋研究所から、日本の水族館の技術を勉強しようと



当館では大型飼育施設における魚類の生態学的な研究をする予定です。日本の大学にいたこともあるパンさんは日本語がとてもしっかりで、飼育研究部のスタッフともすぐにうちとけ、魚たちを毎日熱心に観察しています。研修は1月7日から6月28日までの予定です。

鳥羽水族館 スケジュール (1993年1月31日現在)

<p>4月</p> 	<p>3月10日～4月19日</p> <ul style="list-style-type: none"> ●魚の陶芸展【M】 <p>4月20日～5月18日</p> <ul style="list-style-type: none"> ●海のギフトギャラリー【M】 	<ul style="list-style-type: none"> ■三重動物学会主催 「エビ網あとの生物採集・観察会」 <p>4月下旬～5月中旬</p> <ul style="list-style-type: none"> ●映像班ガラバゴス諸島へ
<p>5月</p> 	<p>5月19日～6月17日</p> <ul style="list-style-type: none"> ●世界の貝展【M】 <p>5月22日～6月17日</p> <ul style="list-style-type: none"> ●増井克利展【P】 	<p>5月15日</p> <ul style="list-style-type: none"> ●海のホール定期コンサート 北村英二クインテッドを迎えて
<p>6月</p> 	<p>6月19日～7月23日</p> <ul style="list-style-type: none"> ●村上光璋展【P】 	<ul style="list-style-type: none"> ■三重動物学会主催 「モリアオガエル観察会」

ギャラリー

コンサート・撮影・その他

【M】：マリンアートギャラリー 【P】：ピュアアートギャラリー ■三重動物学会の詳細については 鳥羽水族館内・事務局まで

クイズ&プレゼント

Q：1月13日鳥羽市沖で発見された、33本以上もの足をもった生きものは何でしょうか？



正解者の中から抽選でかわいいカニのつめ切りを5名様にプレゼントします。

ハガキにクイズの答え、住所、氏名、感想をご記入の上ご応募下さい。

●〆切は4月30日です。

あて先：〒517三重県鳥羽市鳥羽3-3-6

鳥羽水族館 企画室「T.S.A.」編集係

冬冬当選者の皆さん(鳥羽水族館カレンダー)
榎 暁さん(滋賀県)・杉村香代子さん(三重県)
森川祥夫さん(三重県)・後藤健志さん(三重県)
小林千代子さん(三重県)以上5名様でした。

スーパーな子供たち

スーパーの3、川

ミズクラゲ



定期購読申し込み方法

お申し込み時より1年分の送料として175円切手を4枚、左記あて先までお送りください。
(住所・氏名・電話番号をお忘れなく！)